

2016年（平成28年） 10月21日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

10/6～10/12のNYMEX・WTIは、9月28日のOPEC減産合意を受けて、49.81～51.35ドルと50ドル前後で推移した。

10月13日は、米エネルギー情報局(EIA)の週間在庫統計で、前週比の原油在庫は市場予想(70万バレル増)を上回り490万バレル増と積み増されたものの、予想に反してガソリン在庫が190万バレル減、中間留分在庫が370万バレル減となったことから、米国内の石油需給の引き締め感を感じ、3日振りに反発した。11月限の終値は前日比0.26ドル高の50.44ドルだった。

週末14日は、ドル高・ユーロ安の進行に伴うドルで取引される原油の割高感やペカー・ヒューズ社の米国稼働リグ数(432基、前週比4基増)の横ばい週を挟む14週連続増加の報告があり、小反落した。11月限は前日比0.09ドル安の50.35ドルで終了した。

週明け17日も、前週末の流れを受けて続落し、6営業日振りに50ドルを割り込んだ。11月限の終値は前日比0.41ドル安の49.94ドルとなった。

18日は、前日のクウェートのサレハ石油相代行の11月OPEC総会での産油量に関する見解の一致への楽観発言を材料とするOPECの協調減産への期待感などから、反発した。11月限の終値は0.35ドル高の50.29ドルだった。

19日は、EIAの米国石油在庫週報で、原油在庫の大幅な減少が報告されたことから続伸し、2015年7月14日以来1年3カ月振りの高値となった。11月限は前日比1.31ドル高の51.60ドルで終了した。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(11月渡し)は、前週48.80～50.30ドルの範囲で上昇した。13日

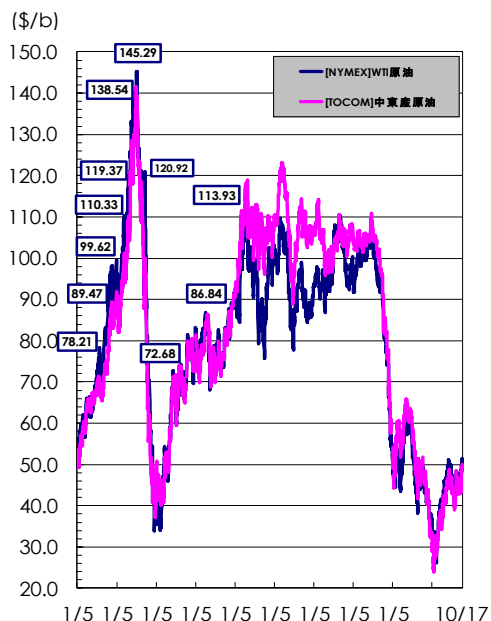
は48.80ドル、14日は49.70ドル、17日は49.30ドル、18日は49.20ドル、19日は49.35ドルで推移した。

為替は、前週103.46～103.95円と狭い範囲で推移した。13日は104.58円、14日は103.88円、17日は104.25円、18日は103.79円、19日は103.75円で推移した。

主要元売会社の10月第4週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、1.0～2.5円値上がりした。OPEC減産合意を受けて供給過剰解消への期待感から、原油価格は値上がりし、為替レートも円安となったため、原油調達コストは値上がりだった。

そのような中で、10月17日時点の小売価格は、ガソリンが1.8円値上がりの124.6円、軽油は1.4円値上がりの103.7円、灯油は0.9円値上がりの64.6円だった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は8週振りに値上がりだった。この週(10月第2週)の原油コストは大きく値上がりし、元売の卸価格は全社が1.5～3.5円値上げした。

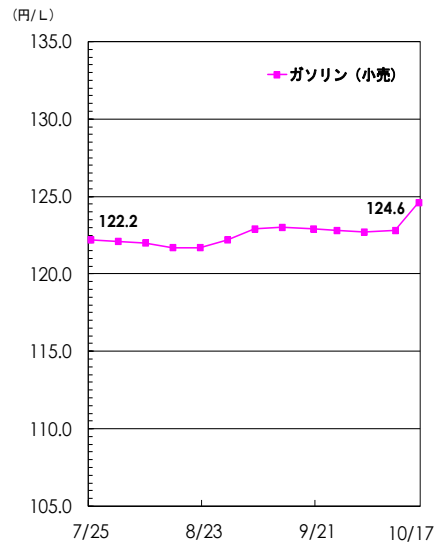
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/9～10/15	3,306 ▲159	▼-
	トッパー稼働率 (%)	"	77.8 ▲3.7	▼-
	原油在庫量 (千kl)	10/15	13,699 ▼-450	▼-
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	10/17	48.93 ▼-1.14	▲1.1
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	10/17	49.94 ▼-1.41	▲4.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月中旬	45.69 ▲0.28	▼-5.55
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	29,504 ▲814	▼-9,491
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	102.66 ▼-2.22	▲18.32
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/17	105.25 ▼-0.30	▲15.07



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/9 ~ 10/15	966 ▲ 22	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	966 ▼ -20	▲ -	
	輸出	"	5 ▼ -7	▼ -	
	在庫	10/15	1,504 ▼ -5	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/11 ~ 10/17	44.9 ▲ 1.6	▼ -5.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/11 ~ 10/17	44.2 ▲ 0.9	▼ -4.7
		(TOCOM/中部)	10/17	43.7 ▲ 0.2	▼ -5.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/17	124.6 ▲ 1.8	▼ -9.2	

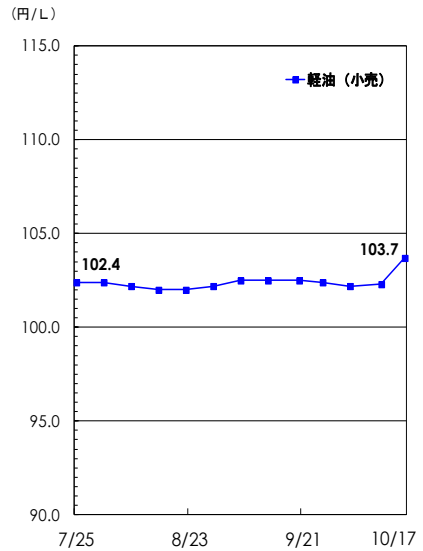
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

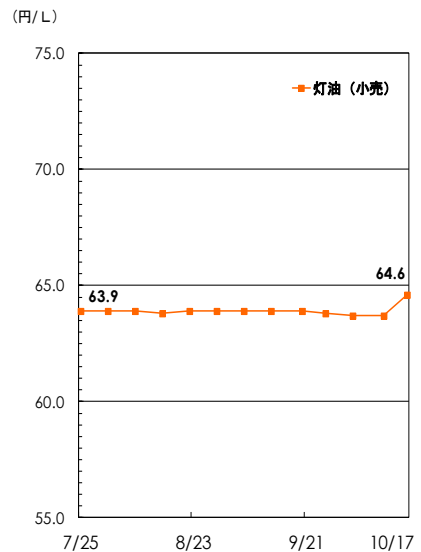
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/9 ~ 10/15	693 ▼ -38	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	643 ▼ -37	▲ -	
	輸出	"	111 ▲ 26	▲ -	
	在庫	10/15	1,412 ▼ -61	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/11 ~ 10/17	41.1 ▲ 1.6	▼ -3.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/11 ~ 10/17	41.0 → 0.0	▼ -5.2
		(TOCOM/中部)	10/17	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/17	103.7 ▲ 1.4	▼ -8.5	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/9 ~ 10/15	238 ▲ 16	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	232 ▲ 27	▲ -	
	輸出	"	46 ▲ 46	▲ -	
	在庫	10/15	2,836 ▼ -41	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/11 ~ 10/17	41.2 ▲ 2.7	▼ -6.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/11 ~ 10/17	44.1 ▲ 1.0	▼ -5.4
		(TOCOM/中部)	10/17	43.4 ▲ 0.9	▼ -5.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/17	64.6 ▲ 0.9	▼ -13.7	



■ 関連情報

1 海外/原油

19日のNYMEX市場のWTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫統計で、原油在庫が前週比520万バレル減と事前の市場予想(同270万バレル増)に反して大幅減少となったことから続伸し2015年7月14日以来1年3カ月振りの高値となった。ただ、ガソリン在庫は同250万バレル増と予想(160万バレル減)に反して増加したことから、国内需給への警戒感も出て上値は抑えられた。11月限の終値は前日比1.31ドル高の51.60ドル、12月限の終値は前日比1.20ドル安の51.82ドルだった。

EIAによると10月17日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比1.5セント値下がりの1ガロン2.257ドル(62.7円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比3.6セント値上がりの2.481ドル(68.9円/ℓ)。ガソリンは3週振りの値下がり、軽油は3週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、10月9日～15日に休止したトッパ―能力は、57.6万バレル/日と前週に比べて7.9万バレル減少。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は330.6万klと、前週に比べ15.9万kl増加。前年に対しては8.8万klの減少。トッパ―稼働率は77.8%と前週に対して3.7ポイントの増加、前年に対しては0.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/2.3%増、ジェット/3.4%減、灯油/7.0%増、軽油/5.2%減、A重油/2.2%減、C重油/12.0%増。今週のC重油の輸入は6.7万kl(前週比3.5万kl増)。軽油の輸出は11.1万kl(前週比2.6万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではジェット、灯油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、C重油が減少し、その他の油種で増加した。原油価格の値上がりが続ぎ、小売価格は2週連続で値上がりとなる中、ガソリンの出荷は96.6万kl(対前週2.0%減)と2週振りに前週比で減少、3週連続で前年比で増加となり、6週連続で100万klを割った。

ジェット12.8万kl(対前週2.0%増)、灯油23.2万kl(対前週12.8%増)、軽油64.3万kl(対前週5.5%減)、A重油18.8万kl(対前週5.7%減)、C重油22.9万kl(対前週5.9%減)。

(単位：千KL)

	今週 (10/9 ~ 10/15)	前週 (10/2 ~ 10/8)	前週比	
ガソリン	966	986	▼ -20	(-2%)
ジェット燃料	128	126	▲ 2	(2%)
灯油	232	205	▲ 27	(13%)
軽油	643	680	▼ -37	(-5%)
A重油	188	199	▼ -11	(-6%)
C重油	229	243	▼ -14	(-6%)
合計	2,386	2,439	▼ -53	(-2%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月15日時点の在庫はジェット、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては灯油のみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは150.4万kl、前週差0.5万kl減。前年に対しては14.6万kl少ない。

灯油は283.6万kl、前週差4.1万kl減。前年に対しては1.2万kl多い。

軽油は141.2万kl、前週差6.1万kl減。前年に対しては23.0万kl少ない。

A重油は71.8万kl、前週差0.4万kl減。前年に対しては7.1万kl少ない。

C重油は203.9万kl、前週差1.3万kl増。前年に対しては26.8万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (10/15)	前週 (10/8)	前週比	
ガソリン	1,504	1,509	▼ -5	(-0%)
ジェット燃料	1,046	1,024	▲ 22	(2%)
灯油	2,836	2,877	▼ -41	(-1%)
軽油	1,412	1,473	▼ -61	(-4%)
A重油	718	722	▼ -4	(-1%)
C重油	2,039	2,026	▲ 13	(1%)
合計	9,555	9,631	▼ -76	(-0.8%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月11日から10月17日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円安で、原油コストは小幅ながら引き続き値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン98～99円台、軽油40～41円台、灯油40～42円台で堅調に推移した。海上スポット価格は、ガソリン99円台、軽油42～43円台、灯油42～44円台で軽油を除き値上がりした。先物価格はガソリン97～98円台、軽油41円台、灯油43～44円台で軽油を除き値上がりが見られる。元売の卸価格は1.0円から2.5円の値上がりだった。

EMGマーケティングは10月20日、10月22日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、灯油は1.5円、それ以外の油種は1.0円引き上げる旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストが値上がりし、卸価格も引き上げられたことから、製品スポット市況は堅調となった。週間のガソリン販売量は、6週連続で100万klを下回った。

10月第4週(10月20日～10月26日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(10月11日～10月17日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.6円、灯油は2.7円、軽油は1.6円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.4円、灯油は2.2円、軽油は0.4円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.9円、灯油が1.0円の値上がり、軽油が横ばいだった。OPECの減産にロシアも協力を表明したことによる原油コストの値上がり、製品スポット価格の堅調化の影響で、スポット価格も全般的に値上がりとなった。

10月第4週の大手元売の卸価格は、1.0円から2.5円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]	今週 (10/11 ~ 10/17)	前週 (10/4 ~ 10/7)	前週比	
レギュラー	44.9	43.3	▲ 1.6	
灯油	41.2	38.5	▲ 2.7	
軽油	41.1	39.5	▲ 1.6	

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値]	今週 (10/11 ~ 10/17)	前週 (10/4 ~ 10/7)	前週比	
[平均]				
レギュラー	44.2	43.3	▲ 0.9	
灯油	44.1	43.1	▲ 1.0	
軽油	41.0	41.0	▶ 0.0	

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/11～10/17実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.6	▲ 0.9	▲ 1.3
灯油	▲ 2.7	▲ 1.0	▲ 1.9
軽油	▲ 1.6	▶ 0.0	▲ 0.8
A重油	▲ 1.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バーージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月17日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.8円値上がりの124.6円、軽油は前週比1.4円値上がりの103.7円、灯油は前週比0.9円値上がりの64.6円だった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は8週振りの値上がりとなった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは46都道府県、横ばいは1県、値下がりがなかった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県119.1円(前週比0.9円高)、次が千葉県120.8円(前週比1.9円高)だった。最高値は長崎県の132.6円(同0.2円高)だった。都道府県別で最も値上がりし

たのは、前週比3.9円高の秋田県(123.7円)で、値下がりはなかった。

原油コストは値上がりし、2週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の元売会社の卸価格は値上がり、原油価格はさらに値上がりし、為替レートも円安に振れているため、原油コストは値上がりとなったことから、次週の小売価格は、値上がりが見込まれる。

(資工庁公表)		(単位: 円/%)			
[週動向]	今週 (10/17)	前週 (10/11)	前週比	直近高値	
レギュラー	124.6	122.8	▲ 1.8	08/8/4	185.1
灯油	64.6	63.7	▲ 0.9	08/8/11	132.1
軽油	103.7	102.3	▲ 1.4	08/8/4	167.4

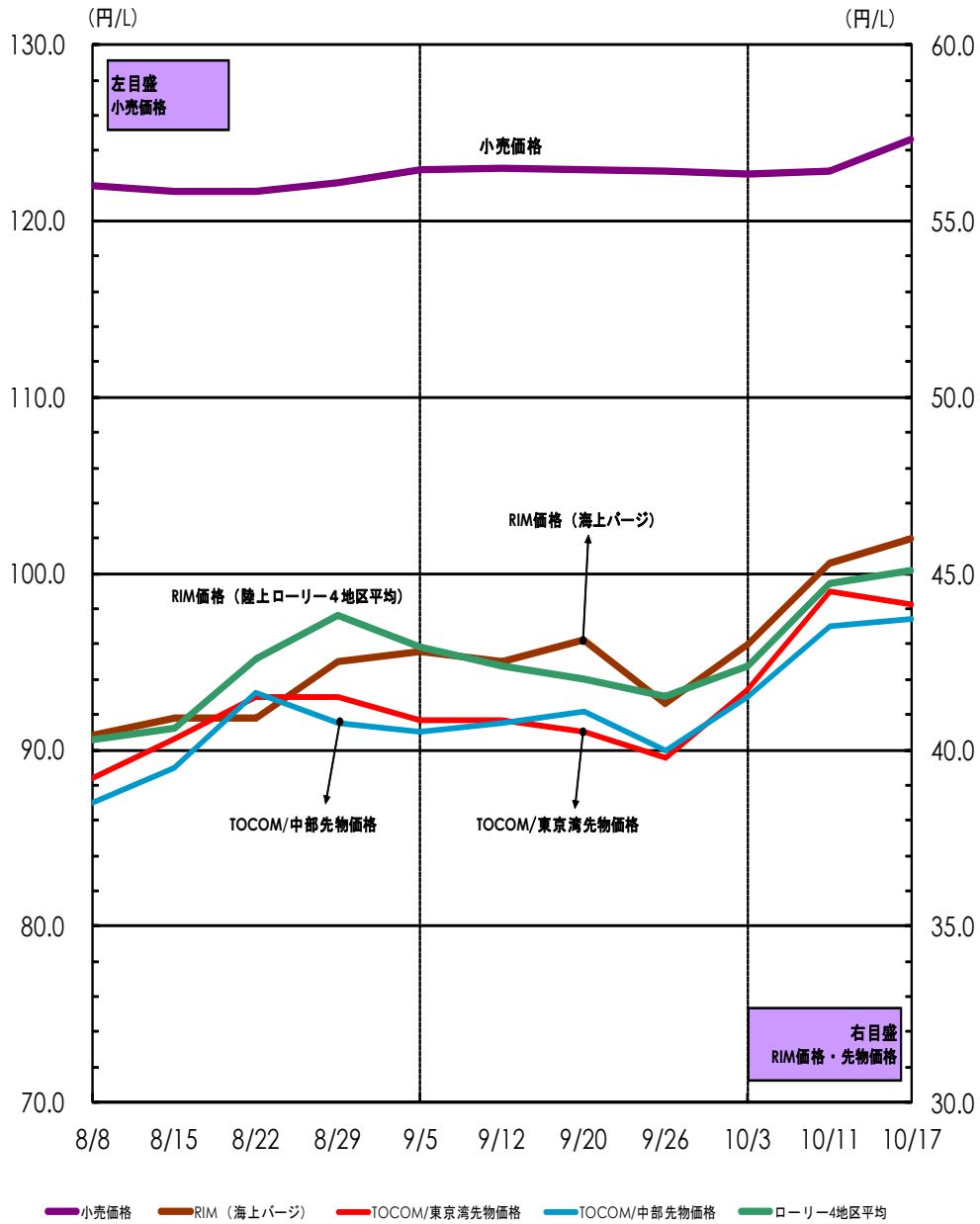
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/8/8 ~ 2016/10/17)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第29号)の公表は、10/28(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。